

# 「民間まかせ」の米国

## 紙参院議員 BSE 調査で報告

党埼玉県委

日本共産党の紙智子参院議員は二十六日、さいたま市の党埼玉県委員会事務所を訪ね、農業や労働問題の担当者、県役員らとの懇談で、BSE(牛海綿状脳症)訪米調査について報告しました。

輸出した問題の食肉企業にも直接出向いた様子について説明。食品安全委員会(内閣府)でさまざまな意見が出て、米国産輸入牛が無条件に安全と結論づけなかったにもかかわらず、アメリカ側の圧力で再開に踏み切った小泉内閣の責任は大きいと指摘した。

紙議員はアメリカ農務省と同食品安全検査局からの聞き取りや、日本に脊柱

報告のあと参加者の質問に答えながら懇談。アメリカの、と畜場の検査状況を聞かれた紙議員は、「日本では法律があり、私たちがと畜場の視察を求めれば必ず視察できる。アメリカでは民間任せで私たちが視察を申し入れても『部外者には見せないことになってい

る』と拒否された」とのべま

どうして日本のような一

頭ごとに誕生日が管理がさ

れないのかという質問に

は、「アメリカは一億頭く

らいの牛がいるうえに、自

然交配で生まれるため正確

な月齢や父母の情報がか

らない。もし一頭ごとの管

理をやるうとすればものす

ごいお金がかかるので承知

しない」と実情を紹介。参

加者から大きなよめきが

おこりました。



BSE問題調査について報告する紙智子参院議員(立っている人)＝26日、党埼玉県委員会事務所

紙智子参院議員が党埼玉県委員会でのべた BSE 訪米調査報告(要旨)を紹介します。

◇ ニューヨークにある、日本に脊柱(せき)ちゅう)つきの牛肉を輸出した問題の会社

(アトランティック社)を見てきました。比較的小さく、主に枝肉を切り分けて製品にするそうです。

事前に営業中の工場を見た小倉正行さん(紙議員秘書)は、ドアが開け放しでほり

入るなど、輸入再開にあたり日本向け施設の条件として日米で合意した、HACCP(高度な衛生管理方法)に対応しているのか疑問に感じたと話していました。

私も工場を見て、同じようなのは実際の作

業などを見るのでは

なく、仕組みがちゃん

と機能するかどうか

を見るのです。また、

日本への輸出条件に

ついて知っているか

## 「調査」に程遠い米国「査察」

紙参院議員報告(要旨)

アメリカでは、製品がルールを理解しているかだけをチェックすることです。輸出先は日本を含めて十二カ国にわたり、輸出牛の月齢や、取り除くべき危険部位など、条件は国によってさまざまです。いっしょにやっていたことが、この間明らかになっていきます。日本はアメリカから輸入しなくてはならないと、改めて強く思

「複数の国むけにやっていると、改めて強く思



危険部位を残した牛肉を日本に輸出したアトランティック・ビル・アンド・ラム社の作業場

20日、ニューヨーク(小倉正行秘書撮影)